

関係経費の推移

(単位:百万円)

	平成 12年度	平成 13年度	平成 14年度	平成 15年度	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	
【本体建設費(第I期)】														
日本原子力研究開発機構	2662	3958	11997	8541	11010	14127	17502	15446	564	本体建設費 合計				
高エネルギー加速器研究機構		8,362	5,736	7,907	8,352	10,450	10,658	8,910	6,219		152,402			
小計	2,662	12,320	17,733	16,447	19,362	24,577	28,161	24,357	6,783					
【その他施設整備に係る経費】														
日本原子力研究開発機構							678		4,710	2,803	555	1,400	1,450	
特定先端大型研究施設整備費補助金										2,540	577	1,995	40	
高エネルギー加速器研究機構									750	500	538	7,346		
小計							678		5,460	5,843	1,670	10,742	1,490	
【運営費等】(運営費交付金中の推計額を含む)														
特定先端大型研究施設利用促進交付金												724	702	
日本原子力研究開発機構分	894	495	358	192	351	491	1,164	2,452	4,607	5,957	4,863	1,897	529	
特定先端大型研究施設運営費等補助金											1,658	5,770	7,821	
高エネルギー加速器研究機構分						657	3,343	4,303	5,194	6,500	6,773	6,617	6,617	
小計	894	495	358	192	351	1,148	4,507	6,755	9,801	12,457	13,294	15,008	15,670	
合計	3,556	12,815	18,091	16,639	19,713	25,725	33,346	31,112	22,044	18,300	14,963	25,750	17,159	

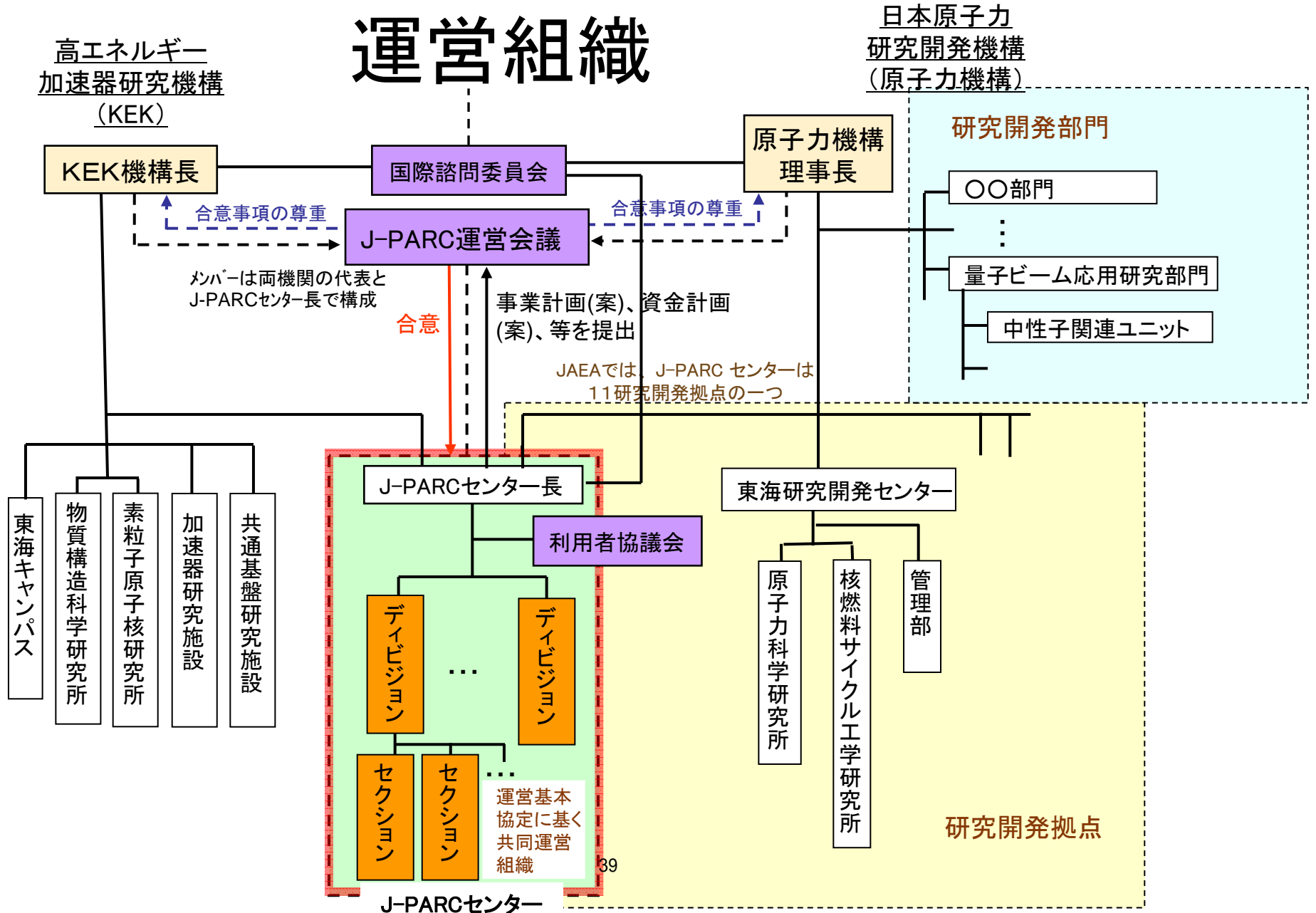
※日本原子力研究開発機構については、平成17年10月までは旧日本原子力研究所を指す。また高エネルギー加速器研究機構は、平成16年4月に大学共同利用機関法人化。

※合計は、四捨五入により合わないものがある。

※合計には、補正予算を含む

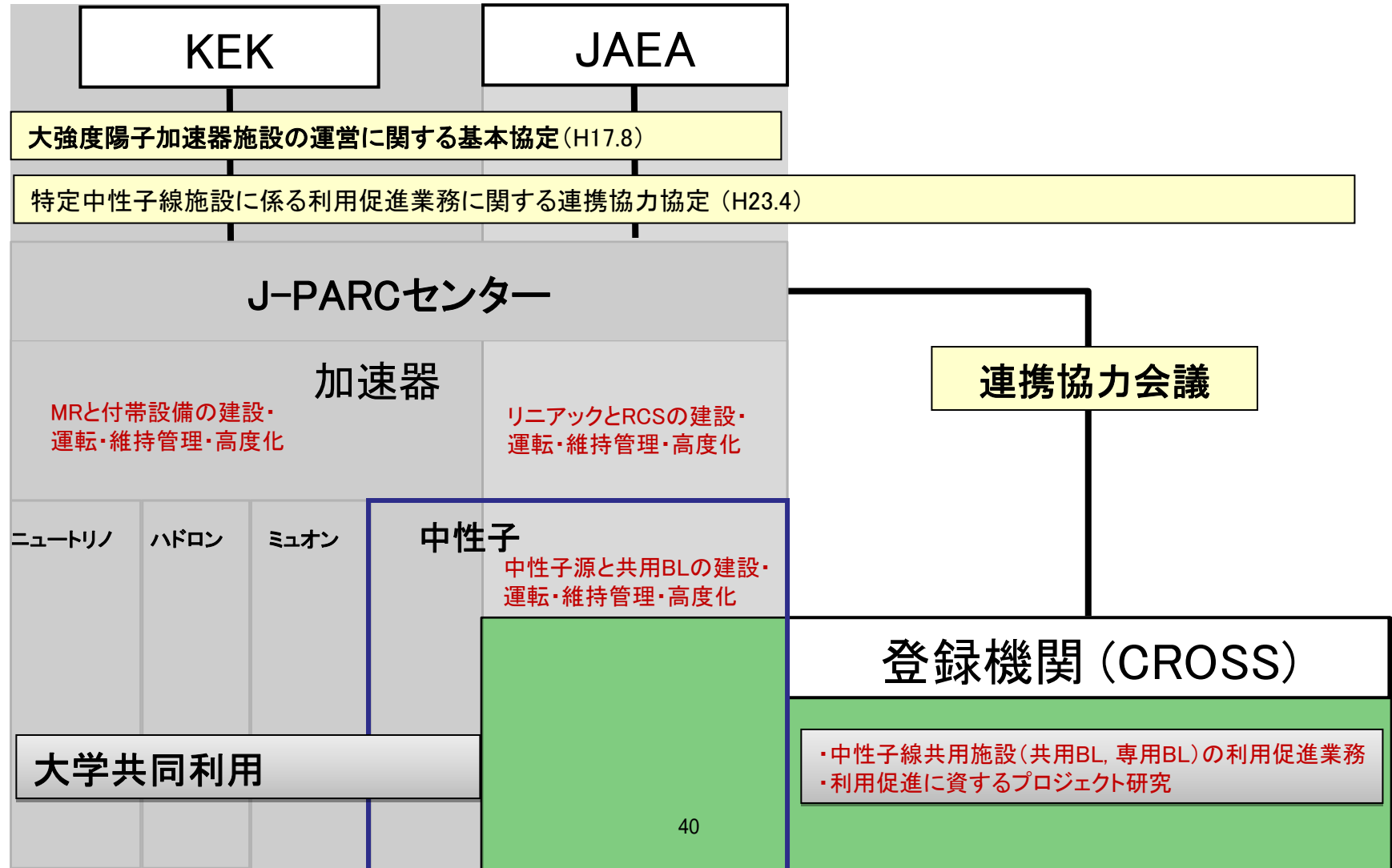
J-PARCの運営組織

運営組織

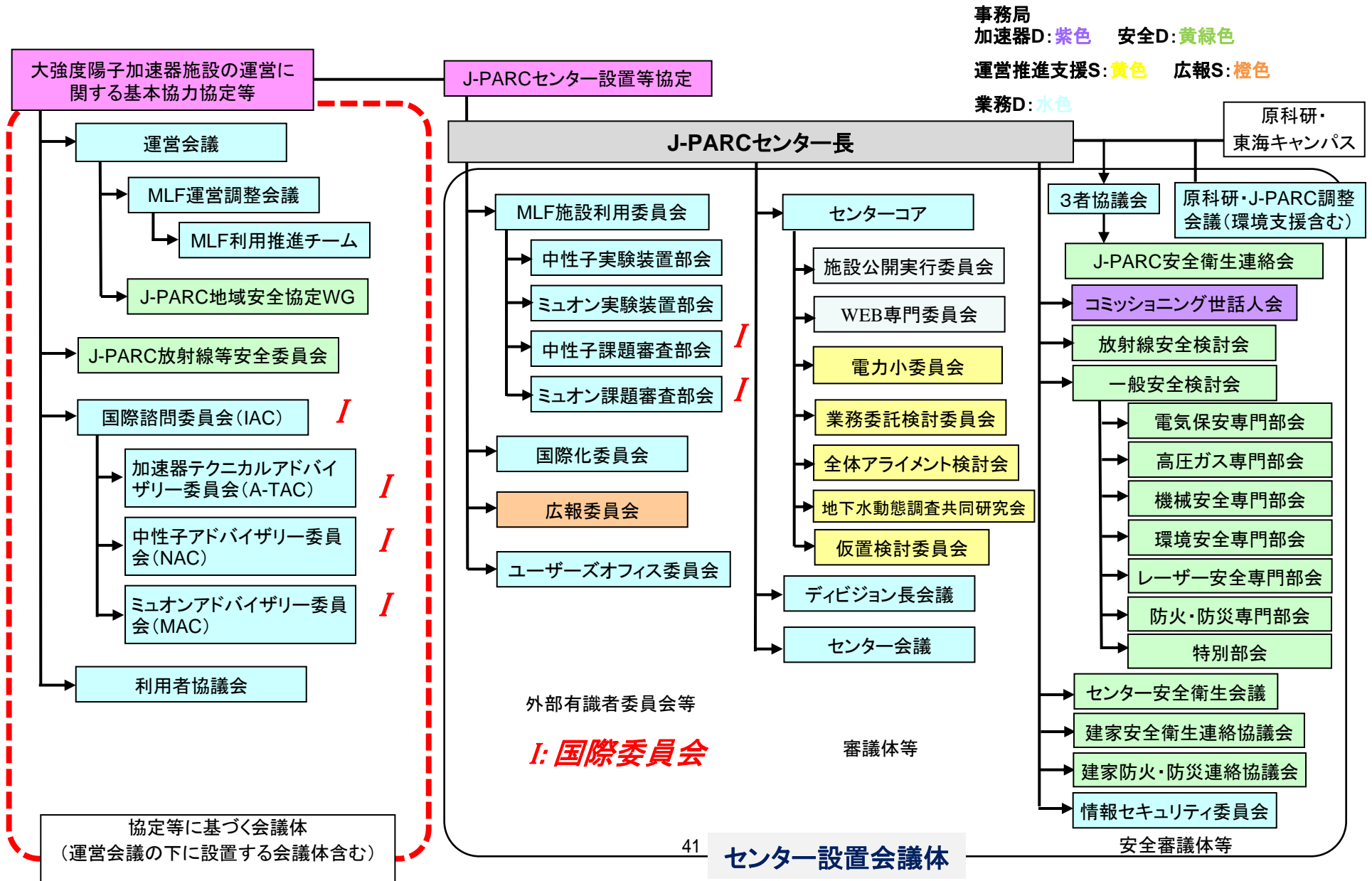


J-PARCの運営組織(共用施設として)

➤ MLFのうち中性子線実験施設は、共用法の対象施設であり、登録施設利用促進機関(登録機関)が、施設設置者とも連携・協力しつつ、利用者の公募・選定、利用者支援業務を実施する。



J-PARCセンターの運営体制



共用ビームラインの利用料金について

1. 利用経費負担の基本的な考え方

共用ビームラインの利用料金について、原則はSPring-8等の他の国内施設や海外施設と同様に、以下を基本としている。

- ①成果公開利用・・・原則無償(消耗品実費負担)
- ②成果非公開利用・・・運営費回収方式により利用料金を設定

2. 利用料金

当面の利用料金については、以下表のようになっている。
なお、状況に応じて適宜料金設定について見直しを行う予定である。

(補足)

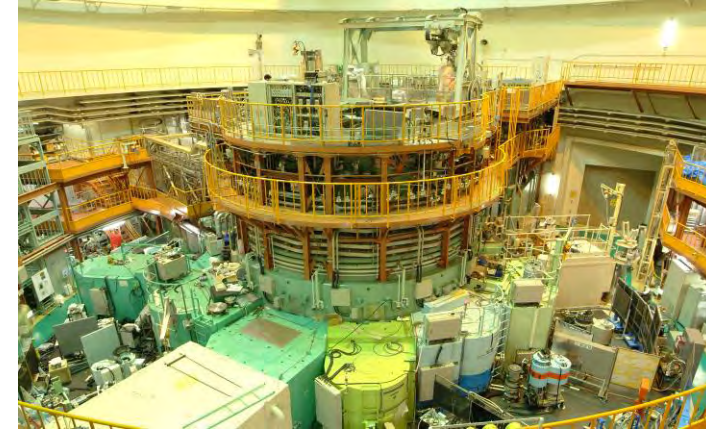
- ・平成27年度までに所定のビーム強度である1MWに到達する予定。
- ・今後、共用ビームラインが数本増加する見込み。
- ・なお、昨今の電気料金の高騰に留意が必要。

↓見直し予定

年 度	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1
ビームライン1日 1本あたり運営費(千円)	2,914	3,193	3,414	3,237	2,936	2,936	2,936	2,936	2,936
利用料金 (千円/1日・本)	1,572	1,729	2,075	2,490	3,243	3,243	3,243	3,243	3,243
対前年度料金増加額 (千円)	0	157	346	42 415	753	0	0	0	0

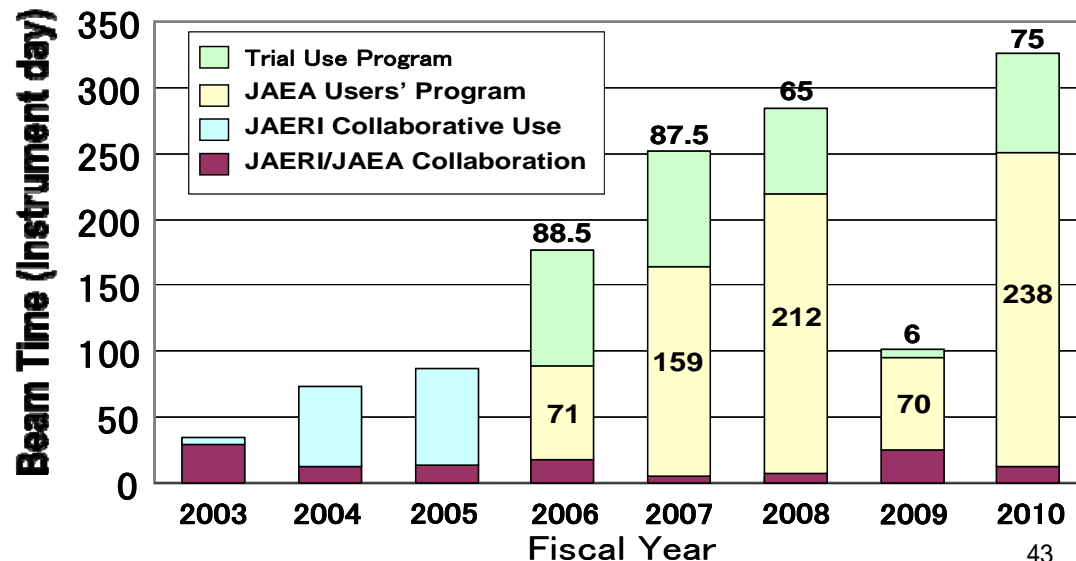
JRR-3の利用状況について

- 研究炉JRR-3は、定常中性子源を用いて、中性子ビーム実験(中性子ラジオグラフィ、中性子散乱実験、即発ガンマ線分析)や中性子照射試験(シリコン半導体やRIの製造)に利用されている。
- 1962年建設(初臨界)し、1990年全面改造、2007年ランドマーク賞受賞。
- 2006年より施設供用開始。トライアルユースにより産業利用が急増。
- 2012年5月現在、震災の影響により停止中。
- 今後、他の量子ビーム利用研究との相補的利用を開拓するとともに、パルス中性子源であるJ-PARCと連携し、国内外に拓かれた国際的中性子利用研究拠点を目指す。

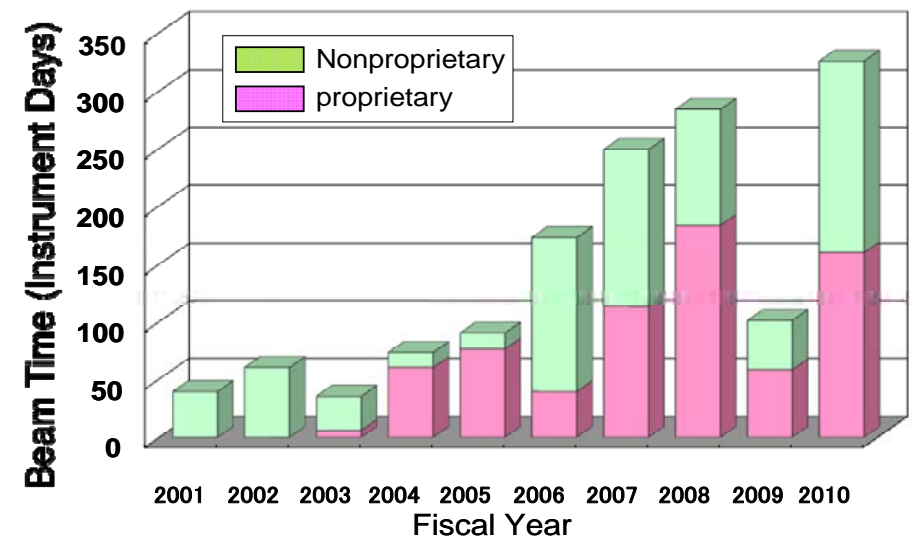


諸元

- ・熱出力20MW
- ・冷中性子源CNS設置
- ・中性子束 3×10^{14} n/s.cm²



JRR-3 Beam Time for Industrial Users



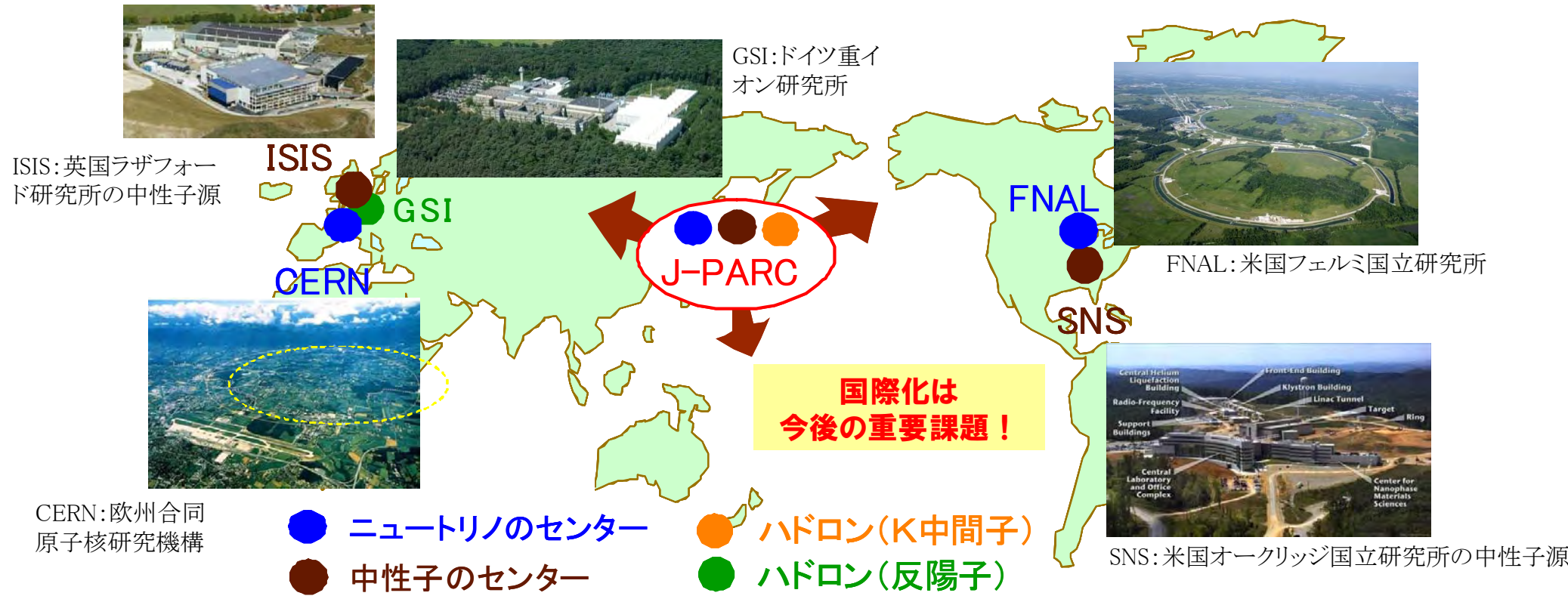
Development of Industrial Use at JRR-3

国際拠点としての取組等について

- ▶ 外国人職員数は全体の3.4% (2012年4月)
- ▶ ユーザー数の増加: 617人(2008年度) → 1,998人(2010年度)
- ▶ Annual Report, Newsletter 等の発行、ウェブサイト更新
- ▶ J-PARCに関する国際協定等の締結
- ▶ ユーザーズオフィスの整備、国際化担当職員の雇用

＜今後の重点課題と目標＞

- 国際的なアカデミックな雰囲気醸成
- 研究環境の整備
- 住宅環境や交通環境の整備



物質生命科学 : 世界の3極の一つ。特にアジアオセアニア圏の利用者
 ハドロン物理 : 世界ではユニークな Kaon Factory
 ニュートリノ物理 : 世界をリードしつつ3極の一つ

今後の施設整備の構想

計画開始からの年表

項目	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
ニュートリノ+加速器 (KEK)		■				大強度化目標達成 (メインリング電源改造)
中性子 KEK JAEA		■				新ビーム1本 環境整備+新ビーム3本 環境整備を優先する
ミュオン (KEK)	■					S、Hラインの新設 但し、S一部先行
ハドロン (KEK)	■					新一次陽子ライン(高運 動量ライン+COMET)
核変換 (JAEA)	■					TEF-T(ADS標的の多 目的使用)先行
施設整備 (JAEA)	■		■			研究総合基盤棟 放射化物使用棟

大強度陽子加速器施設評価作業部会の設置について

科学技術・学術審議会

先端研究基盤部会

研究計画・評価分科会原子力科学技術委員会

学術分科会研究環境基盤部会

1. 設置の趣旨

大強度陽子加速器（J-PARC）計画は、原子力委員会及び学術審議会加速器科学部会により合同で設けられた評価専門部会において事前評価（平成12年8月）が実施され、独立行政法人日本原子力研究開発機構（当時、特殊法人日本原子力研究所）と大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構（平成16年4月より法人化）の共同プロジェクトとして、平成13年より建設が着手された。

また、平成15年12月には科学技術・学術審議会学術分科会基本問題特別委員会及び研究計画・評価分科会原子力分野の研究開発の評価に関する委員会の合同の評価作業部会において、平成19年6月には科学技術・学術審議会学術分科会学術研究推進部会及び研究計画・評価分科会原子力分野の研究開発に関する委員会の合同の評価作業部会において、それぞれ中間評価が実施された。

本計画については、前回の中間評価実施以降5年が経過しており、「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」（平成21年2月17日）等により、大規模研究施設の評価は概ね5年を目安に評価することとなっているため、その共用施設としての役割や機能に関することを中心として中間評価を実施し、併せて今後の方向性を示していく必要がある。

このため、上記に係る評価・検討を行う本評価作業部会を設置する。

2. 主な検討事項

- (1) 震災による影響と、復旧状況について
- (2) 前回の中間評価における指摘事項への対応状況について
- (3) 各種実験施設における円滑な利用体制の構築について
- (4) 国際研究拠点化について
- (5) 物質・生命科学実験施設の共用の推進について
- (4) 今後の課題について
- (6) その他

3. 設置の形態

科学技術・学術審議会先端研究基盤部会、学術分科会研究環境基盤部会及び研究計画・評価分科会原子力科学技術委員会合同による大強度陽子加速器施設評価作業部会を設置する。

4. 庶務

関係課室の協力の下、研究振興局基盤研究課量子放射線研究推進室が処理する。

大強度陽子加速器施設評価作業部会 開催経緯**第一回：平成24年3月7日**

- 議題 (1) 部会の設置趣旨・運営等について
(2) J-PARC計画の概要及び現状等について
(3) 中間評価（平成19年6月）における指摘事項について
(4) 評価作業部会の進め方及び検討事項等について（案）
(5) その他

第二回：平成24年4月11日

- 議題 (1) 前回の議論等について
(2) 運営体制について
(3) 国際研究拠点化について
(4) 物質・生命科学実験、共用の推進等について
(5) その他

第三回：平成24年4月24日

- 議題 (1) 前回の議論等について
(2) 二期計画の核変換施設について
(3) 加速器整備について(1MWへのシナリオ)
(4) ニュートリノ実験について
(5) ハドロン実験について
(6) その他

※ 平成24年5月8日 J-PARC現地調査**第四回：平成24年5月14日**

- 議題 (1) 前回の議論等について
(2) 今後の計画について
(3) 報告書（素案）について
(4) その他

第五回：平成24年5月30日

- 議題 (1) 前回の議論等について
(2) 報告書(案)について
(3) 中間評価（案）について
(4) その他

大強度陽子加速器施設評価作業部会 委員名簿

◎：主査 五十音順

氏名	所属・役職
相原博昭	東京大学大学院理学系研究科 研究科長・教授
岡田清孝	自然科学研究機構基礎生物学研究所 所長
長我部信行	日立製作所中央研究所 所長
梶田隆章	東京大学宇宙線研究所 所長
金谷利治	京都大学化学研究所 教授
金子美智代	トヨタ自動車株式会社材料解析室 室長
熊谷教孝	公益財団法人高輝度光科学研究センター 専務理事
小森彰夫	自然科学研究機構核融合研究所 所長
田村裕和	東北大学大学院理学研究科物理学専攻 教授
鳥養映子	山梨大学大学院医学工学総合研究部 教授
西島和三	持田製薬（株）医薬開発本部 専任主事
◎福山秀敏	東京理科大学 副学長
山縣ゆり子	熊本大学大学院生命科学研究部 教授
横山広美	東京大学大学院理学系研究科 准教授

(平成24年4月現在)



J-PARC 大強度陽子加速器施設

Japan Proton Accelerator Research Complex



独立行政法人
日本原子力研究開発機構



大学共同利用機関法人
高エネルギー加速器研究機構

平成 21 年 7 月 16 日撮影